

頭抱える雪を有効活用 天然冷蔵庫「氷室」に雪入れ



除雪機により氷室に次々と入れられる雪

西和賀統括センターは3月8日、同センター敷地内にある、雪を活用した予冷貯蔵施設「氷室」に雪入れを行いました。

氷室は、雪により室内温度が約3度に保たれる天然冷蔵庫。湿度が高いので、機械で冷蔵するより鮮度を保ちやすくなっています。

同日は、町の除雪作業員6人が除雪機やブルドーザーの重機を使い、同センター敷地内に積もった雪約200tを氷室へ詰めました。室内には、昨年秋に収穫したリンゴを4月中旬まで貯蔵するほか、9月頃までアスパラガスやホウレンソウ、グラジオラスやユリなどを市場出荷するまで貯蔵します。

アスパラガス生産者集結し一致団結 産地確立に向けて倍増運動を継続



「目標に向かって進もう」と語る八重樫真純アスパラガス専門部長

J A野菜部会は3月15日、花巻市のホテルで「平成28年度アスパラガス推進大会」を行いました。

大会には管内4地域の生産者のほかJ Aや市場関係者、指導機関など約100人が集まり、過去3年間の生産や販売経過、他産地の流通などを見直し、新たな対策を打ち立てました。

J Aは産地確立に向けてアスパラガスの栽培面積180haを目指す作付倍増運動を展開しており、4年間で203人が新規・増反し、作付面積が24ha増えました。今年度は地域ごとの年間計画を策定し38haの拡大を目指します。県内一の生産力と品質を更に高め、産地の責任を果たします。

地元食材使いお振る舞い JAいわてグループ統一活動の日

J Aは3月11日、産直母ちゃんハウスだすこ沿岸店で大槌産冬採りキャベツを使った豚汁やつきたての餅、同店食堂で販売している「野菜まるごとスムージー」を振る舞いました。

女性部員やJ A職員ら約20人が、各100食を準備したほか、「おにぎらず作り体験」も行い、来店者に地元の安全安心な食を伝えました。来店者からは「豚汁に具材がたくさん入っていておいしい」と好評でした。

J Aいわてグループでは、毎年3月11日を「同グループ統一活動の日」と定めており、同日は県内7J Aが一斉に東日本大震災の復興支援や社会貢献活動に取り組みしました。



女性部員から教わり楽しく作れたと人気だった「おにぎらず作り体験」

「注文の多い矢沢かあちゃん市」にいらっしやい 毎週木曜日午後2時から営業中

J A女性部矢沢支部の産直の会「注文の多い矢沢かあちゃん市」は3月17日、花巻市矢沢にあるJ A農業倉庫前で今年度の販売をスタートしました。

特設の棚には野菜や花、手作りの漬物や菓子などの豊富な品物が並び、冬期休業からの営業開始を待ちわびた地域住民が訪れ、にぎわいをみせました。

同会は3年前に販売場所を失い、会の存続危機にも直面しました。しかし、25年近く続く青空市の継続を願う地域の声や会員の地元貢献への強い思いもあり、J A施設の敷地で屋外販売を復活。矢沢支店の職員も陳列作業や販売を手伝い、女性部員と共に地域を盛り上げています。



「人と人が交流出来る場にもなれたら」と語る川村育子会長（右上）

一夜限定ワインを振る舞う ぶどう生産者と共にワインを楽しむタベ



ワインの出来栄を伝えながら振る舞う生産者

花巻市大迫町の（株）エーデルワインは3月4日、大迫ふるさとセンターで「ぶどう生産者と共にワインを楽しむタベ」を開きました。

生産者34人が、自らの園地で採れたブドウのみを使い醸造した平成27年産限定ワインを、来場者約200人に振る舞い交流を深めました。タベには、専用品種「メルロー」など6品種と試験栽培中の3品種が参考出品。来場者は、同じ品種でも園地によって異なる味を飲み比べ楽しみました。

生産者の佐々木光則さん（52）は「来場者を楽しんでもらうことが楽しみ。おいしいと言っていただけでも励みになる」と笑顔で話しました。

良品質リンドウ栽培に向けて

西和賀町でこだわりの育苗



小さな種を手際よく蒔く組合員

J A西和賀花卉生産組合から委託を受けた育苗農家は3月14日、リンドウの播種作業を行いました。

同組合は良質な根やオリジナル品種を有し、育苗へのこだわりや優良品種を見い出す試験用品種栽培を行うため、毎年育苗から生産者が携わり徹底管理のもと栽培しています。今年は、2日間にわたり育苗農家のハウス4カ所約25戸分を播種しました。

同日は、南川信一組合長のハウスに同組合員やJ Aなど7人が集まり、1.2mmの種を手作業で丁寧に播種。定植用と70種類の試験用品種を128穴のセルトレイ、305枚（約50a分）に蒔きました。南川さんは「平成28年産販売目標額の約3億2千万を達成し、産地としての責任を果たしたい。品質管理を徹底して、目を引くリンドウを作る」と意気込みました。